

二色根薬師寺 まきえ 蒔絵絵馬

県指定有形文化財（工芸品）

「絵馬」とは、祈願するときや願いがかなったときのお礼に、神社やお寺に奉納する絵の額のことです。今も受験生などが合格祈願のために小絵馬を納めています。

もともとは、神様の乗り物としての馬を奉納する代わりに、馬の絵を描いた額を奉納していたのですが、やがて物語の場面などいろいろな画題が描かれるようになりました。また、大きな絵馬や立派な絵馬も奉納されるようになりました。赤湯二色根地区の薬師寺には大きな絵馬が何枚か残っています。

ここで紹介するのは、大絵馬ではなく小さな絵馬です。B4版ぐらいの大きさを「蒔絵」という技法で描かれた立派なものです。

「蒔絵」とは、器物の表面に漆で模様を描き、乾かないうちに金銀粉・色粉などを蒔いて附着させ、絵模様を表わす日本の伝統的な漆工芸です。大名らの奥向き用具などに使われましたが、蒔絵で描かれた絵馬は少ないでしょう。

それでは、薬師寺に残っている蒔絵絵馬を見てみましょう。この美しい絵馬には、戦国時代の弘治2（1556）年、小間孫兵衛尉景国が、「所願成就」を祈願して宮内熊野権現に奉納したと書いてあります。小間孫兵衛尉景国については今のところわかっていません。

黒漆を塗った板面に、左右2本の杭木に手綱をつないだ一頭の馬が「平蒔絵」という技法で丹念細密に描かれています。



▲薬師寺に残る蒔絵絵馬。美しく品格のある馬が描かれている。

黒漆の中の金粉が輝き、馬の鼻革は鮮やかな朱色で染められ、美しく品格があります。また十数個に束ねられたたてがみがそろえて切られていて、いかにも神馬らしい姿で描かれています。

なお、薬師寺には県指定文化財のこの絵馬のほか、もう一つの県指定文化財「薬師如来座像」も鎮座されています。

南陽市文化財保護審議委員 須崎寛二
平成26年2月1日号 市報なんよう掲載